

ふたかみ NEWS プチトマト



収穫



今年もハピバールでは、梅を収穫して「梅シロップづくり」を行いました。暑くなってくると「早く飲みたいー！」という声があり、夏のなかまの楽しみになっています！梅パワーで、今年も暑い夏を乗り切るぞー！！（阪本）



作成



完成

社会福祉法人ふたかみ福祉会

〒583-0841 大阪府羽曳野市駒ヶ谷 105 番地 1 TEL 072-959-3221 FAX 072-959-3264

Email: futakami@kagayaku-inochi.com <https://kagayaku-inochi.com/company/>

発行責任者：石本悦二 編集責任者：関口奈緒美



七夕の取り組み

7月7日七夕の日、はびきの園でも七夕を飾りました。ゆたあい班とまーち班のなかまがきれいな飾りを作ってください、全員短冊にお願い事を書き、笹につけました。「〇〇に行けますように」「〇〇さんと仲良くなれますように」「〇〇が欲しいです」などと、なかま、職員ともに色々なお願い事を書いておられました。また、その日は給食も、七夕そうめん、お星さまコロケ、お星さまゼリーと、七夕を感じられるメニューで、今年も素敵な七夕を送ることができました。皆さんの願い事がかないますように。（溝川）



ボーナスください



はびきの園では、7月3日午後からボーナス交渉があり、担当者と主任で交渉をおこないました。

各班の課題に対し事前に予測を立て、回答などを話し合ってきた結果を報告しました。

自分たちが知らない質問をされると、知らないで済ませるのではなく反対に質問を投げかけ回答を求めることもできるようになっています。

待ちに待った結果報告「ボーナス出しまーす♪」の発表とともに拍手喝采

もらったボーナスで各班の取り組みや自分たちの楽しみに使い、またボーナスがもらえるように毎日なかまと共に職員も頑張っています。（山田）

cafeハピバール

8月の予定

定休日 毎週水曜/日曜

休み 14日(木)～16日(土)

★Instagram★
[cafe-hapibar.com](https://www.instagram.com/cafe-hapibar.com)

お問い合わせ先
072-958-3232

■後援会入会及び更新の方々（敬称略）

2025年6月

・佐藤泉/田中美希/川井哲二/森慶一/森俊介

・・・以上5口

・白石義男

・・・以上2口

・長井吉久/田中恭子/西沢君子/白石恵子/タング佳子/村上彩子

・・・以上1口

橋本哲夫/橋本妙子/東侑佑/寺田恒/中村鈴子

■寄付・寄贈 真銅善夫様 田中恭子様 寺田恒様 中村鈴子様

■ボランティア（ハピバール） 垣内秀夫様

■アルミ缶回収（6月分） ・・・576kg

ありがとうございます

◆2025年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆

皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【個人会費：1口2,000円 団体会費：1口10,000円】 郵便振替口座：00940-5-325894

個人会費については6月の総会で、2025年度からの会費の改定をしました。

なかまを捉える力を培う〜ふたかみ福祉会中堅職員研修〜

日中事業所では利用者(なかま)一人一人に個別支援計画を作成して、支援を行っていきま。支援者が行った支援・働きかけの内容や、そういった関わりに対してなかまがどういった反応を返されたのか、姿を見せられたのかを日々のケース記録(日誌)という形で残しています。今回の研修では、その対象となる人をいかに捉えて、情報として記録した上で、支援計画にまとめていくのかについて学習しました。

6月7日に大阪健康福祉短期大学の鴻上先生に講義とグループワークで一日かけてご教授いただきました。まず計画を作る前段としての記録の取り方について示唆が与えられました。

日々のなかまの情報で集めるべきなのは客観的なものであるという点です。客観的とは誰もがその文章を読んでも、そこから具体的な姿、状況を連想出来るということことです。「笑顔だった」と一言で表現してしまえば簡単ですが、こういった情報からそう判断したのかを具体的に

併記しなければ、記録としての確からしさに欠けます。目を細めていたのか、明るい声を出していたのか、気持ちの高ぶりを表す何らかの挙動があったのかをできるだけ盛り込むようにしたほうが良いということ。支援者一人の着目と記述はどこまで突き詰めても主観に違いありませんが、複数の支援者の目線でなかまを捉えられれば、人により違った姿を見せられているケースもあるのが分かってくると思います。そういった事例を出し合い積み重ねる中で、対象者を複層的な厚みのある本人像として把握できるようになるのだと思います。

日々の支援の積み重ねがあつて、アセスメント、モニタリング評価に繋がっていくのですが、本人主体の支援計画を作るために、なかま自身が何を感じて、どう考えているのかを大前提に据えていく姿勢が何より大切になります。ICF(国際生活機能分類：人間の生活機能と障害程度を5項目で分類評価する方法)の視点を取り入れることで、本人の人生をより包括的に把握できます。はびきの園の

支援計画の作成にはその手法は採り入れられていませんが、客観的な評価を行う上では意義のあるものです。「健康状態(病気のこと)、身体具合のこと」の項目においてその方の持つ障害や医学的な診断を捉えます。「心身機能・身体構造」の項目を明らかにできれば、次の「活動(できること、できないこと)は何か」が分かってくると思います。そこから「参加(人とかかわりの場面、日中活動)がどの程度実現できているのか」が導き出されます。そこに「環境因子(その人の周りのこと)」の影響も考慮して、その人の課題を捉えられます。今回の研修では、そこに個人因子(その人特有のこと)という項目を加えて、実際に日中支援しているなかまを一事例として取り上げて、参加者で集まり簡単な実態把握のワークを行いました。「〜さんってどんな人?」と尋ねられた時に、その方について沢山伝えられる支援者であるように努めたいと思えました。(東)



後援会総会

6月20日にふたかみ福祉会後援会の総会が行われました。総会では2024年度の総括と供に、節目となる30回目のチャリティーコンサートへの準備をすすめていくことや、後援会費の変更(3000円→2000円)など新たな活動を含む今後の計画について報告がなされました。

出席者からもふたかみ福祉会に関わっている方をはじめ、地域の方に意義をしっかりと伝え、後援会員を上げていくことや、ふたかみ福祉会のなかまと後援会の関わり方について具体的な提案や課題が出されました。今後も継続的に論議を行い具体的な形にしていくことが求められています。

時代の変化と伴に後援会も変化が求められるようになってきていますが、予定する新たなチャレンジを足掛かりに後援会の意義や役割を協力して広げたいこうと確認できた総会となりました。(田邊ゆ)

支援センターはる 南河内北障害者就業・生活支援センター

「はるクラブ」

■余暇企画
当センターに登録されている就労者を対象に休日に遊び行く企画を行っています。今回は海遊館へ行ってきました!

みなさん海遊館は久しぶりとのこと、じっくり魚を見られる方も居れば、写真に専念される方などそれぞれ楽しんで過ごされている様子が見えました。笑っているように見えるお顔の魚に笑顔したり、ペンギンに見とれていたたり、注目ポイントも様々でした。

海遊館をじっくり楽しんだ後は、トルコ料理のお店に行き、チキンケバブのプレートをみんなで食べました。初トルコ料理の方も多く、みなさん黙々と食事と向き合う姿が印象的でした。食後には天保山マーケットプレイスを各々堪能し、充実した時間になりました。(大前)



■学習会

「コミュニケーション第2弾」センター登録者に向けて、日常の疑問や困りごとを一緒に勉強する機会としています。

会社内での人間関係や家族との関わり方など、それぞれの悩みがあるため、講義を受けた後、どのようなことで困っているのか記入してもらいました。

講義後の実践として、記入した内容を参考に二人一組に分かれて話をしてもらいました。講義の中で出てきた「あいづちをうつ」「否定をしない」「専門用語を使わない」など、聞く練習と話す練習を行いました。

学習会の後はカフェタイム。お菓子とジュースを手に、笑顔とあいづちを意識しながら会話を楽しんでいました。(伊藤)



まーち班遠足

まーち班では6月4日に奈良県三郷町にある奈良おもちゃ美術館に遠足に行きました。前日の大雨とは打って変わっていいお天気に恵まれ遠足日和となりました。おもちゃ美術館は木製のおもちゃが多く、木と木がぶつかる音やヒノキの香りに包まれた素敵な空間でした。木材でできた屋台や平城京、野菜畑や森など様々なブースがあり、1つ1つ回っていると時間があつという間に経ってしまいました。見学が終わってからは外にあるインクルーシブ遊具を体験し、皆さんとても楽しまれていました。今回伺った奈良おもちゃ美術館の皆さまご配慮くださりありがとうございました。(森本あ)

